

巻頭言

病院図書室に求められるもの、その後

前橋赤十字病院 院長
宮崎 瑞穂

日赤図書館協議会も創立21周年を迎え活発に活動していただいていることを病院の管理者として感謝とお礼を申し上げます。特に赤十字コンソーシアムによる図書の共同購入経費の節減などの努力にはありがたいと思っています。

このたび巻頭言の依頼を受け、私が2001年の当誌の巻頭言で「病院図書室に期待されるもの」として数項目あげましたが、その後どうなったのか当院の状況を見てみました。項目順にみると、まず

I. 病院図書室は医学情報の蓄積がなくてはならない。

これについては教科書や基本的なものの、教育的なものは書籍だけでなくDVD等も含めてそろえる必要があると述べましたが、当時と比べれば現在では情報技術の格段の進歩による価格の低減、インターネット環境の進歩により検索範囲が大きく広がり高速化および動画も含めて大量のデータがダウンロード可能となっています。その点から情報の蓄積、保持よりも検索が重要になっています。

II. 病院の図書室は情報の受け入れが自由にそして迅速に出来なくてはならない。

これについても同じ理由で格段に進歩しています。今後もこの傾向はますます進むことは間違いありません。そしてあふれる情報に囲まれ、どこに、どのような情報があるかなどの情報、また効率的検索法などの獲得は人の熟練に頼るところも多く、司書の役割はますます大きくなるでしょう。

III. 病院の図書室は情報の発信基地であらねばならない

これについては必ずしも十分に行われているとは言えません。院内にインターネット環境や電子カルテシステムが張り巡らされてきた現状で情報は院内外向けのホームページで発信されていますが当院では発信が総務課、企画課などと複数部署に異なっており有機的に運営できていない現状です。

IV. 病院の図書室は知的生産の場でなくてはならない。

以前は発表のツールとしてスライド作成機が設置されていましたが、パワーポイントに変わり個人で容易に作れるようになりました。司書によれば以前に比べ医師以外の他職種の職員が図書室を訪れ

るようになり発表原稿のチェックなどを依頼されることが増えたとのことで。その点では大きな発展と言えます。

V. 病院図書室はコミュニケーションの場ではなくてはならない。

これについてはあまり進展していない。むしろ図書室を利用する人とそうでない人が分離している傾向のようです。

VI. 病院の図書室は職員の安楽の場所ではなくてはならない。

これについても思ったほどには進んでいません。日々の忙しい業務の間に図書室まで行って休むなどは出来ないようです。多くの病院で職員満足度の向上のため癒しの空間を用意するところが増えていたので別の所に作られているのかもし

れません。

こうみると病院図書室は本質的には変わらないもののIT技術の進歩により書籍や文献の保存の機能は重要性が低下し、検索の機能が伸びていくのは間違いないだろう。そして今後は知的生産の場としての機能が増えることが考えられる。最近増えている診療秘書などと協力して研究のための支援などを行ってゆく必要があるでしょう。先日テレビで特許出願の援助を行う公立図書館が紹介されましたが、図書室の役割を限定的にとらわれず、柔軟な発想で機能を多様化、強化する必要がありますが司書さんにも求められるのではないのでしょうか。